



# 農作業メモ

## 水稻 今後の管理について

本年は、5～6月の育苗期間が好天に恵まれ、苗が順調に生育しました。また、麦類の刈取りが順調に進み、田植えが早まったほ場も見られました。

今後は高い気温が続く可能性があります。気象情報には十分注意し、高温対策をしっかりと行いましょう。

### 1 水管理

適正な水管理を行うことが重要な高温対策となります。

農業用水は取水量、取水時期ともに制約があることから、かけ流しは行わず、有効に利用しましょう。

#### (1) 中干し

無効分けつの抑制や健全な根の維持のため、中干しを行いましょ。

田植え後30日頃を目安に、茎数が1株あたり20本程度となったら実施しま

す。期間は7～10日間前後、田面に小ひびが入り、歩いて足跡が付くくらいが目安です。

#### (2) 出穂期前後・登熟期間

穂肥施用後は湛水状態を保ち、出穂期前後約7日間は深水管理を実施します。穂揃い後は、1週間サイクルで湛水と落水を繰り返す(4日間湛水後、3日間落水)間断かん水とします。

気温が高く、高温障害が懸念される時は、夕方以降に入水を行うことで、田面温度を下げるができます。

### 2 穂肥

肥料分が減少するにつれ、葉色が薄くなり黄化してきます。葉色が低下すると高温障害を受けやすくなります。高温障害軽減のため、ほ場をよく観察し、葉色の低下が見られる場合は適正な穂肥を実施します。

適正な穂肥を行えば、食味を損なうことはありませんので生育診断(葉色等)に基づいた穂肥を適切に実施しましょう。

肥料切れで葉色が極端に低下してしまつた後に穂肥を施用した場合、葉色が戻るまでに時間がかかります。稲体の消耗も激しくなり外観品質の低下を招きます。遅い穂肥は食味低下も招くため、適期の実施を心がけましょう。

表 主な品種の施肥量と穂肥施用時期の目安

品種名	移植期	基肥量 窒素成分 /10a	穂肥	
			施用時期	施用量 窒素成分 /10a
キヌヒカリ	6月23日	5kg	7月 29日頃	2kg
彩のきずな	6月23日	5kg	7月 22日頃	2kg
彩のかがやき	6月23日	5kg	7月 29日頃	2kg

(穂肥の施用時期は、平成28年埼玉県主要農作物奨励品種特性表の出穂期平年値を参考に算出しました。今後の気象条件やほ場条件により、この日付から変動することがあります。)

### 3 病害虫防除

#### (1) 稲こうじ病

出穂後の籾に発生します。生産物に被害籾や被害粒が混入すると検査で規格外となり、経済的に大きな影響をもたらします。前年に本病が多発したほ場では、薬剤散布による防除を行いましょう。粗選機による除去も効果的です。

#### (2) カメムシ類

カメムシ類による吸汁は、斑点米の発生要因です。

対策は、①出穂期前後の除草はカメムシ類の水田への移動を助長するため、出穂2週間前以降は行わないようにします。②出穂期～乳熟期(出穂後10日頃)に薬剤防除を行います。

### 4 適期収穫

高温が続くと登熟が進みます。早期落水を行わないとともに刈遅れないように努め、適期収穫に努めましょう。

(大里農林振興センター 農業支援部)